公益財団法人日本美術刀剣保存協会 平成29年度事業報告及び決算報告

I 事業の実施状況

1. 博物館事業

(1) 展示事業

平成29年度刀剣博物館の展示活動及び入館者数は29ページ表1の通り。

(2) 鑑賞会事業

当協会移転に伴い、鑑賞会事業は7月～10月及び12月は休止いたしました。今年度定例鑑賞会は毎月第2土曜日午後1時から当協会講堂において開催しました。鑑賞会には平均六五名の出席があり、刀剣の鑑賞並びに鑑定刀の入札及び当協会学芸員による解説を行いました。

また定例鑑賞会にあわせて、平成24年9月から刀剣を手にとって鑑賞したくない初心者の方向けの刀剣の扱い方、鑑賞の方法を学ぶための「刀剣鑑賞マナー講座」を予約制で開催し、修了した方には修了証を発行しており、平成29年度は七三名の参加者がありました。

その他、協力団体が公益事業として開催する鑑賞会に、依頼により鑑定刀の貸与及び講師の派遣を行いました。平成29年度は六二件の依頼があり、刀剣類五点を貸与し、鑑賞の指導を講師（当協会学芸員）が行いました。協力団体開催の鑑賞会の平均出席者は二四名でした。

(3) 作品発表会（現代刀職展）

刀剣博物館移転開館後最初の展示として、平成29年新作名刀展（作刀、刀身彫、彫金の職方の作品）及び第70回刀剣研磨・外装技術発表会作品展（研磨、白鞘、刀装、柄前、白銀の職方の作品）を改組した「現代刀職展」を開催しました。この展示は、現代作家の作品発表の場の提供及び多くの方に技倆の高さをアピールすることを目的としており、平成30年1月

19日（金）から3月25日（日）までの開催期間で一〇、〇〇三名のお客様にご来場いただきました。

(4) 古伝書等の公開

当協会の古伝書、一般刀剣関係書籍等を収蔵している閲覧室を月曜日から金曜日の10時から16時（12時～13時を除く）まで事前予約制で一般の利用に供しました。入室、閲覧は無料とし、コピーサービス（有料）も提供しました。平成29年度は移転に伴い刀剣博物館とともに4月から休室しておりましたが、開館後七件の利用がありました。

(5) 刀剣相談

当協会に来館、または書面、電話での刀剣等に関するあらゆる相談を受け付け、刀剣類の文化財としての位置付けを認識していただくとともに、刀剣類の手入れ方法や保存方法についても助言いたしました。また銃砲刀剣類所持等取締法に基づく所轄警察署への届出等、関係法令の周知徹底を図り、各都道府県教育委員会への登録申請の相談も受け登録業務に協力いたしました。

(6) 広報誌の発行

平成29年度は広報誌『刀剣美術』を73号から74号まで発行いたしました。当協会の編集委員及び編集担当職員が毎月編集委員会を開催して内容を検討し、投稿された刀剣関係の論文、随想、資料紹介等の掲載の他、定例鑑賞会の報告及び当協会や刀剣界の情報発信源として、また刀剣類の知識の向上を目的として会員の皆様への配布のみならず、刀剣博物館においても一般に頒布いたしました。

(7) ホームページ活用

『刀剣美術』誌と共に、当協会や刀剣界の情報発信源として活用してい

るほか、刀剣の知識が学べるようなページを構成しています。

また、『刀剣美術』誌の記事の一部を英訳してホームページから見ることができるようになり、海外の研究者、愛刀家等の要望にも応えています。さらに、刀剣博物館の移転にあわせ、ホームページを全面リニューアルし、会員の皆様をはじめとしたお客様により分かりやすい情報発信に努め、お客様とのコミュニケーションツールとして運用して参ります。

2. 教育、講習事業

(1) 刀職技能訓練講習会

刀職者の技能向上とその普及を目的として、西日本で行っているこの講習会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で研修生を募集し、平成29年度で31回を数え、備前長船刀剣博物館において平成29年6月22日(木)から6月25日(日)までの4日間開催いたしました。

講習部門は「柄下地の部」と「刀装金具の部」の二部門で、「柄下地の部」は柄巻師の無鑑査認定者の講師により「柄下地の基礎技法」を講習テーマとして実施し、受講者は四名でした。「刀装金具の部」は白銀師の無鑑査認定者の講師により「縁頭の製作技法」を講習テーマとして実施し、受講者は一名でした。

また、最終日の閉講式において受講生に受講証書を交付いたしました。

(2) 第50回刀剣研磨・外装技術研修会

刀職者の技術の向上とその普及を目的として行っているこの研修会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページで研修生を募集し、当協会講堂において平成29年7月24日(月)から7月29日(土)までの6日間開催いたしました。

研修部門は「研磨の部」「鍛冶研ぎの部」(前半3日間)及び外装の部として「白鞘・刀装の部」「柄前の部」「白銀の部」(後半3日間)であり、「研磨の部」は研師の無鑑査認定者の講師により「仕上げ研ぎ」を研修テーマとして実施し、特別研修生七名、研修生五名、聴講生一九名の参加がありました。「鍛冶研ぎの部」は刀匠の無鑑査認定者の講師により「鍛

冶研ぎの基礎技法」を研修テーマとして実施し、特別研修生二名、研修生一名、聴講生一名の参加がありました。「白鞘・刀装の部」は鞘師の無鑑査認定者の講師により「白鞘の基礎技法」を研修テーマとして実施し、研修生一名、聴講生九名の参加がありました。「柄前の部」は柄巻師の無鑑査認定者の講師により「刀剣の相違と柄形の成り立ち」を研修テーマとして実施し、特別研修生一名、研修生一名、聴講生四名の参加がありました。「白銀の部」は鉦師の無鑑査認定者の講師により「火造・着せの基礎技法」を研修テーマとして実施し、特別研修生二名、聴講生五名の参加がありました。

また、3年間の研修終了者は研磨の部の特別研修生一名、研磨の部の研修生二名、白銀の部の研修生一名がおり、修了証書を交付し、その他研修生、聴講生にそれぞれ研修証書、聴講証書を交付いたしました。

(3) 第35回作刀技術実地研修会

この研修会は、文化庁の作刀承認を得ること及び若手刀匠の技術向上を目的として、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページで研修生を募集し、平成29年9月1日(金)から9月4日(月)の4日間、島根県の日刀保日本刀鍛錬道場において開催しました。

本研修会は3年で修了となるカリキュラムで行っていますが、今回は第13期の2年目にあたり「素延・火造」をテーマとして講師に刀匠で無鑑査認定者二名により実施し、研修生三名、聴講生五名の参加がありました。この研修では近年のサブテーマである「各種玉鋼の効果的使用法」の研修も行いました。

(4) 村下養成研修会

たたら操業の日程にあわせ「日刀保たたら」において、日刀保たたら村下を講師に村下後継者の養成を行いました。養成員一〇名の参加がありました。

3. コンクール事業

(1) 平成29年新作名刀展

現代作家の技術の向上及び普及を目的として、作刀の部、刀身彫の部、

彫金の部の三部門について広報誌『刀剣美術』、協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で公募し、平成29年4月3日(月)から5日(水)の間受付しました。申請された作刀の部三八点、刀身彫の部三点、彫金の部二五点について平成29年4月12日(水)に審査会を開催し、その結果は、特賞は作刀の部四点、優秀賞は作刀の部六点、刀身彫の部二点、彫金の部三点、努力賞は作刀の部一〇点、刀身彫の部一点、彫金の部六点、入選は作刀の部一八点、彫金の部一六点となりました。無鑑査による出品は、作刀の部一点、彫金の部一点でありました。

平成29年4月28日(金)午後1時から当協会講堂において表彰式を執り行い、入賞者に賞金、賞状及び副賞(カップ)及び出品者には玉鋼、入選者に入選証書をそれぞれ交付しました。また、各部門について審査員の代表が審査員講評を行いました。

展示は平成29年6月14日(水)から7月6日(木)まで山形県の致道博物館、その後は8月4日(金)から8月27日(日)まで岡山県の備前長船刀剣博物館、9月9日(土)から9月24日(日)までは埼玉県川越市立博物館において巡回展を行いました。

さらに、刀剣博物館では、平成29年新作名刀展(作刀、刀身彫、彫金の職方の作品)及び第70回刀剣研磨・外装技術発表会作品展(研磨、白鞘、刀装、柄前、白銀の職方の作品)を改組した「現代刀職展」を平成30年1月19日(金)から3月25日(日)まで開催しました。

(2) 第70回刀剣研磨・外装技術発表会

現代作家の技術の向上とその普及を目的として、研磨の部、外装の部として白鞘の部、刀装の部、柄前の部、白銀の部について広報誌『刀剣美術』、協会ホームページで公募し、平成29年10月2日(月)から4日(水)の間受付しました。研磨の部は「鑄造の部」と「平造の部」、同時に二部門への出品ができます。申請された研磨(鑄造)の部四七点、研磨(平造)の部一三点、白鞘の部一二点、刀装の部四点、柄前の部一六点、白銀の部一一点について、10月19日(木)当協会講堂において審査会を開催し、審査の結果、特賞は研磨(鑄造)の部七点、柄前の部二点、優秀賞は研磨(鑄造)の部三点、研磨(平造)の部一点、白鞘の部二点、刀装

の部一点、柄前の部一点、白銀の部二点、努力賞は研磨(鑄造)の部一〇点、研磨(平造)の部六点、白鞘の部二点、刀装の部一点、柄前の部三点、白銀の部二点、入選は研磨(鑄造)の部二六点、研磨(平造)の部六点、白鞘の部八点、刀装の部二点、柄前の部九点、白銀の部七点で、落選は研磨(鑄造)の部一点でありました。無鑑査による出品は研磨の部一〇点、柄前の部二点、白銀の部一点でありました。

12月1日(金)午後1時より、当協会講堂において表彰式を執り行い、入賞者に賞金、副賞(カップ)及び賞状を、入選者に入選証書をそれぞれ交付しました。各部門について審査員の代表が審査員講評を行いました。

展示は平成29年新作名刀展(作刀、刀身彫、彫金の職方の作品)及び第70回刀剣研磨・外装技術発表会作品展(研磨、白鞘、刀装、柄前、白銀の職方の作品)を改組した「現代刀職展」を平成30年1月19日(金)から3月25日(日)まで開催しました。

4. 検定・資料収集事業

(1) 刀剣類の保存・特別保存審査

今年度は、当協会移転及び刀剣博物館開館準備に伴い、5月から9月と12月及び1月の審査受付は休止いたしました。その他は毎月、保存及び特別保存の審査申請を受け付け、審査会を開催しました。奇数月の月初めの連続する3日間は刀剣の受け付けを、偶数月の月初めの連続する3日間は刀装・刀装具を受け付けました。受付点数により審査会を複数回設け、審査は理事会の決議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に審査を行い、合格したものには鑑定書を発行しました。受付点数、合格点数は次のとおりでした。

区 分	受付点数	合格点数
保 存	四二五七	二八八〇
刀 装	一九九	一二六
刀装具	二六〇〇	一六四六
刀 剣	一八九一	一二八七
特別保存		
刀 装	一〇六	六六

刀装具 六二九 四二一

(2) 刀剣類の重要・特別重要審査

第63回重要刀剣等審査は10月10日(火)から12日(木)の3日間で受付いたしました。審査は理事会の議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に第1次及び第2次審査を行いました。また、指定品の指定書及び指定品を纏めた図譜は現在作成中です。また、指定品の展示は平成30年4月10日(火)から5月20日(日)まで刀剣博物館において行いました。

受付点数、合格点数はそれぞれ次のとおりでした。

区分 受付点数 合格点数

第63回重要刀剣 七五三 一四〇

刀装 三五 六

刀装具 二七九 二九

(3) 資料収集

保存・特別保存、重要な各審査の申請物件すべての調書を作成し、合格したものについては写真もしくは押形と共に保管し、データベースで管理しました。また過去の受付物件も順次データ化を進めております。

また、全国の重要文化財等の保管施設に職員を派遣し、刀剣押形等の貴重な資料の収集を行い、収集した資料を『刀剣美術』にて公開しました。

5. 資格付与事業

(1) 無鑑査の選任

今年度末現在、無鑑査認定者は作刀の部が一七名、刀身彫の部が一名、彫金の部が四名、研磨の部が一七名、外装の部が一〇名です。

(3) 伝位授与

伝位審議会を平成29年6月、12月及び平成30年3月の3回開催し、初伝位九名、中伝位一名の合計一〇名の合格を認めるとともに、理事会等の決定により、それぞれ伝位証書を授与しました。

(3) 刀剣等指導員・刀剣等指導補助員登録

刀剣等指導員規程による指導員登録の申請が三名より提出され、いずれ

も刀剣等指導員規程第2条の資格を有しているため証明書が発行されました。刀剣等指導員の資格要件に中伝位以上を授与された者と規定されていることから、伝位授与と連動して指導員として刀剣文化の普及に活躍する人材を育てることを目的としています。なお、今年度は刀剣等指導補助員の申請はありませんでした。

6. たたら製鉄事業

たたら操業を平成30年1月24日(水)から2月10日(土)まで三代実施しました。期間中は村下養成研修会とし、日刀保たたら村下を講師に村下後継者の養成を行いました。これに先立ち、操業開始前の準備として数日前より釜土の混練や本床への火入れなどを行いました。炉床の状態を整え、本操業に臨み、伝統技術の保存・伝承に努めました。

操業自体は下準備から始まり、釜作り・三昼夜操業・釜壊しを1単位つまり一代と数え、釜作り以降の作業を計3回行い、1回平均約2・5トンの鉬を生産しました。

また操業終了後からは、生産された鉬を破碎し翌年度以降の玉鋼配布準備のため各等級毎に選別する作業を行いました。

操業期間外では、日刀保たたら村下の指導のもと、ほぼ通年で以下の作業を行っています。①三代分のたたら炭の生産(約36トン)、②粘土の選別と確保、③注文にに応じての玉鋼発送作業、④その他適宜発生する業務。さらに、生産された玉鋼について全国の刀匠に対し頒布の文書を郵送しました。

7. 刀剣文化振興の助成事業

当協会の協力団体は国内に79団体、海外に4団体設立されており、全国及び海外の刀剣普及活動の拠点となっています。

〈国内79団体〉

日刀保根室支部 日刀保帯広支部 日刀保札幌支部 日刀保旭川支部

日刀保青森県支部 日刀保八戸支部 日刀保岩手県支部

日刀保秋田県支部 日刀保羽後秋田支部 日刀保庄内支部

日刀保山形支部 日刀保米沢支部 宮城県美術刀剣保存協会
 日刀保会津支部 日刀保福島県南支部 日刀保いわき支部
 日刀保福島支部 新誠会 日刀保高崎支部 日刀保茨城県支部
 日刀保茨城県西北支部 土浦亀城刀剣会 日刀保栃木県支部
 埼玉県刀剣保存協議会 日刀保千葉県東部支部 日刀保千葉県支部
 日刀保東京都支部 日刀保東京多摩支部 日刀保横浜支部 鎌倉刀剣会
 日刀保湘南支部 日刀保山梨県支部 日刀保新潟支部 日刀保長岡支部
 日刀保富山県支部 日刀保石川県支部 日刀保若狭支部
 日刀保福井支部 日刀保長野県南支部 日刀保長野県北支部
 日刀保長野県東信支部 日刀保静岡岡支部 日刀保静岡東部支部
 日刀保三河支部 日刀保名古屋支部 日刀保岐阜県支部
 日刀保三重県支部 日刀保京都府支部 日刀保大阪支部
 日刀保兵庫支部 姫路しらさぎ刀剣会 日刀保奈良支部
 日刀保和歌山支部 日刀保岡山支部 日刀保山口支部
 広島県美術刀剣保存協会 日刀保島根支部 日刀保鳥取支部
 日刀保香川県支部 日刀保四国讃岐支部 日刀保香川西支部
 日刀保愛媛支部 日刀保徳島支部 日刀保高知支部
 日刀保北九州支部 日刀保八幡支部 協力団体博多支部
 福岡美術刀剣振興会 福岡県文化財保存協会 日刀保筑後支部
 日刀保熊本支部 日刀保宮崎支部 日刀保延岡支部 日刀保長崎支部
 日刀保佐賀支部 葉隠刀友会 日刀保大分支部 日刀保大分北支部
 日刀保鹿児島支部

〈海外3団体〉

- ヨーロッパ支部 アメリカ支部 ロシア支部 イタリア支部
 (1) 協力団体で開催する鑑賞会への講師派遣及び鑑賞刀剣の貸与
 1の(2)鑑賞会事業参照。
 (2) 協力団体で開催する鑑賞会への鑑賞刀剣のみの貸与
 平成29年度は一〇件。

- (3) 協力団体で主催する刀剣類の展示会の後援
 平成29年度の協力団体で主催する刀剣類の展示会の助成及び共催事業は、

以下のとおりです。

①埼玉県刀剣保存協議会 「新作名刀展」

II 管理部門

1. 会員の状況 29ページ表2の通り。

2. 職員に関する事項

職員数計二十七名 男子一七名 女子一〇名(前期末三名減)
 平均年齢 男子53歳 女子52歳

3. 役員会等に関する事項

(1) 平成29年度理事会(定款第44条による理事会)

日時 平成29年4月21日(金)

議題 ①無鑑査の選任について

(2) 平成29年度第1回理事会

日時 平成29年5月23日(火) 午後1時30分から2時30分

議題 ①平成28年度事業報告(案)及び決算(案)について

(3) 平成29年度定時評議員会

日時 平成29年6月23日(金) 午後1時30分から2時30分

議題 ①平成28年度事業報告(案)及び決算(案)について

(4) 平成29年度臨時理事会

日時 平成29年6月23日(金) 午後2時30分から3時

議題 ①定款第30条に基づく会長、専務理事及び常務理事の選任及び代行順位の決定について

(5) 平成29年度理事会(定款第44条による理事会)

日時 平成29年10月10日(火)

議題 ①定款第30条に基づく会長、専務理事及び常務理事の選任及び代行順位の決定について

(2) 主たる事務所の移転について

(5) 平成29年度理事会(定款第44条による理事会)

表 1

展示名	期間	一般	会員	招待	学生	中学生以下	団体	計 (人)
移転に伴う休刊	4. 1 ~ H30. 1. 18							
現代刀職展 ～今に伝わるいにしえの技～	H30 1. 19～ 3. 25	7,488	259	580	645	812	219	10,003
合計		7,488	259	580	645	812	219	10,003

表 2

会員種別	国 内					海 外		計
	普通会員	学生会員	維持会員	優遇会員	終身会員	普通会員	終身会員	
平成30年 3 月末 日	4,056人	28人	7人	8人	56人	242人	9人	4,406人
昨年度との差	-54人	±0人	-3人	±0人	-3人	-16人	+1人	-75人

議題 ①名誉顧問の推戴について
平成29年度第2回理事會

日時 平成30年3月29日(木) 午後1時30分から2時30分
議題 ①平成30年度事業計画及び予算(案)について

②平成30年度審査員の委嘱について

③現代刀職展運営委員会委員の選任について

④基本財産の繰り入れについて

⑤就業規則等の一部改正及び関連規程の制定について

⑥名誉顧問について

Ⅲ その他

(1) 外部文化団体からの出陳要請により協会所蔵文化財のほか、玉鋼、砂鉄や、たたら製鉄の工程などのパネルを貸与しました。また各文化団体からの要請により所蔵文化財等の画像を貸与しました。

(2) 刀剣博物館は海外からの来館者が増加傾向にあり、また協会主催の研修会に参加希望も多く、そうしたニーズにできる限り柔軟に対応して各種事業に海外居住者への利用を促進しました。

(3) 当協会は昭和23年に東京国立博物館内において設立され、昭和43年2月に代々木の地に会館を建設して移転しました。約半世紀を経過し、建物の老朽化が激しく、東京都墨田区旧安田庭園内両国公会堂跡地への新築移転計画を進め、墨田区をはじめとする関係各所との協議・検討を経て、平成28年7月に工事着工、平成29年8月に竣工し、刀剣博物館は平成30年1月19日より開館いたしました。また、開館に先立ち、平成30年1月18日、彬子女王殿下御臨席の下、刀剣博物館及び第一ホテル両国にて刀剣博物館新築落成記念式典及び祝賀会を執り行いました。

平成29年度事業報告には、定款第11条に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

平成30年5月

貸 借 対 照 表

平成30年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当期末	前年度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	14,564,324	126,042,510	△ 111,478,186
未収用金	159,780,334	28,717,327	131,063,007
販売用書	16,307,553	21,863,772	△ 5,556,219
製原材	86,575,306	83,424,298	3,151,008
前払金	1,966,485	2,430,470	△ 463,985
流動資産合計	139,484	861,449	△ 721,965
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	1,017,391,770	0	1,017,391,770
預投	556,026,307	1,699,629,805	△ 1,143,603,498
有価証券	0	30,000,000	△ 30,000,000
刀剣及び小道具	766,250,000	715,250,000	51,000,000
基本財産合計	2,339,668,077	2,444,879,805	△ 105,211,728
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	56,131,956	59,032,016	△ 2,900,060
減価償却引当資産	119,476,655	119,476,655	0
刀剣学奨学積立資産	4,863,763	4,863,763	0
新刀剣博物館建設積立資産	5,818,989	22,635,000	△ 16,816,011
全国大会積立資産	10,000,000	10,000,000	0
特定資産合計	196,291,363	216,007,434	△ 19,716,071
(3) その他固定資産			
建物付属設備	19,877,238	22,337,335	△ 2,460,097
構築物	652,485,862	315,802	652,170,060
機械装置	114,462,288	4,388,154	110,074,134
什器備品	11,409,490	9,070,593	2,338,897
土地	70,351,778	1,123,384	69,228,394
保刀剣及び小道具	300,000	300,000	0
研究用教材	70,000	0	70,000
絵画型	161,691,809	159,196,809	2,495,000
その他固定資産	15,367,000	15,367,000	0
建設仮勘定	3,234,118	5,800,000	△ 2,565,882
その他固定資産合計	8,960,000	8,960,000	0
固定資産合計	3,952,126	0	3,952,126
資産合計	0	635,873,830	△ 635,873,830
その他固定資産合計	1,062,161,709	862,732,907	199,428,802
固定資産合計	3,598,121,149	3,523,620,146	74,501,003
資産合計	3,877,454,635	3,786,959,972	90,494,663
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前払金	4,822,212	12,142,039	△ 7,319,827
前受り金	25,434,851	32,705,634	△ 7,270,783
賞与引当金	5,174,469	3,669,165	1,505,304
流動負債合計	8,807,883	8,217,543	590,340
2. 固定負債			
退職給付引当金	62,380,610	60,977,985	1,402,625
固定負債合計	62,380,610	60,977,985	1,402,625
負債合計	106,620,025	117,712,366	△ 11,092,341
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国庫補助金	2,089,000	0	2,089,000
受取寄付金	84,817,241	22,635,000	62,182,241
固定資産受贈益	51,000,000	0	51,000,000
一般正味財産振替(△)	1,462,832	0	1,462,832
指定正味財産合計	136,443,409	22,635,000	113,808,409
(うち基本財産への充当額)	(136,443,409)	(0)	(136,443,409)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(22,635,000)	(△ 22,635,000)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(2,203,224,668)	(2,444,879,805)	(△ 241,655,137)
(うち特定資産への充当額)	(140,159,407)	(134,340,418)	(5,818,989)
正味財産合計	3,770,834,610	3,669,247,606	101,587,004
負債及び正味財産合計	3,877,454,635	3,786,959,972	90,494,663

正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	421,781	472,680	△ 50,899
基本財産利息収益	421,781	472,680	△ 50,899
特定資産運用益	810,811	825,228	△ 14,417
特定資産受取利息	810,811	825,228	△ 14,417
受取会費及び入会金	46,220,558	46,732,286	△ 511,728
会費及び入会金	46,220,558	46,732,286	△ 511,728
事業収益	276,602,791	448,704,128	△ 172,101,337
刀剣博物館入館料収益	8,199,900	16,881,757	△ 8,681,857
保存刀剣等鑑定会受取会費	176,842,300	291,764,000	△ 114,921,700
重要刀剣等指定会受取会費	54,544,000	93,201,000	△ 38,657,000
鑑賞会受取会費	2,445,200	3,250,800	△ 805,600
書籍売上高	3,174,565	5,871,694	△ 2,697,129
出版売上高	5,348,730	9,917,074	△ 4,568,344
広告料収益	11,509,560	11,139,120	370,440
伝位登録料収益	253,000	929,000	△ 676,000
たたら事業収益	14,285,536	15,749,683	△ 1,464,147
受取補助金等	2,995,002	2,650,000	345,002
受取国庫補助金	2,650,000	2,650,000	0
受取国庫補助金振替額	345,002	0	345,002
受取寄付金	1,117,830	0	1,117,830
受取寄付金振替額	1,117,830	0	1,117,830
雑収	109,741,804	6,606,143	103,135,661
受取利息	913	932	△ 19
雑収益	109,740,891	6,605,211	103,135,680
諸引当金戻入	8,217,543	8,850,081	△ 632,538
賞与引当金戻入	8,217,543	8,850,081	△ 632,538
経常収益計	446,128,120	514,840,546	△ 68,712,426
(2) 経常費用			
事業費	426,548,694	378,970,924	47,577,770
役員報酬	3,102,400	5,652,000	△ 2,549,600
給料手当	132,487,148	137,239,205	△ 4,752,057
福利厚生費	22,640,543	23,076,481	△ 435,938
賃金	33,414,041	40,496,308	△ 7,082,267
旅費交通費	3,881,401	9,172,570	△ 5,291,169
通信搬費	10,661,272	10,661,844	△ 572
消耗品費	26,826,375	3,603,111	23,223,264
印刷製本費	29,090,931	43,390,018	△ 14,299,087
光熱水料費	4,388,999	3,152,660	1,236,339
修繕費	10,141,519	5,780,071	4,361,448
賃借料	18,328,749	18,799,070	△ 470,321
租税公課	619,875	24,422,870	△ 23,802,995
助成費	6,838,800	6,898,000	△ 59,200
支払保険料	1,296,655	867,062	429,593
書籍仕入費	2,308,992	4,642,002	△ 2,333,010
玉鋼材料費	12,808,182	11,845,234	962,948
他勘定振替額	0	△ 43,056	43,056
支払負担金	172,472	143,172	29,300

支 払 寄 付 金	0	200,000	△ 200,000
委 託 費	2,381,006	0	2,381,006
広 告 宣 伝 費	19,544,936	0	19,544,936
渉 外 費	2,970,088	5,290,837	△ 2,320,749
雑 費	12,803,702	2,226,416	10,577,286
減 価 却 費	63,152,370	6,279,104	56,873,266
退 職 給 付 費	6,688,238	15,175,945	△ 8,487,707

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管 理 費	28,694,190	15,579,189	13,115,001
役 員 報 酬	3,737,600	1,803,000	1,934,600
給 料 手 当	2,703,819	2,943,844	△ 240,025
福 利 厚 生 費	1,191,608	1,189,009	2,599
旅 費 交 通 費	2,892,481	412,143	2,480,338
通 信 運 搬 費	561,120	584,827	△ 23,707
消 耗 品 費	2,332,729	317,576	2,015,153
光 熱 水 料 費	381,652	251,940	129,712
修 繕 借 費	881,871	656,534	225,337
賃 借 料	1,484,957	661,665	823,292
支 払 保 險 料	246,982	520,237	△ 273,255
顧 問 料	5,248,800	3,789,000	1,459,800
支 払 負 担 金	77,488	63,128	14,360
広 告 宣 伝 費	604,483	0	604,483
渉 外 費	608,331	1,075,994	△ 467,663
雑 費	847,586	43,121	804,465
減 価 却 費	4,475,928	410,174	4,065,754
退 職 給 付 費	352,012	781,936	△ 429,924
会 議 費	64,743	75,061	△ 10,318
経 常 費 用 計	455,242,884	394,550,113	60,692,771
当 期 経 常 増 減 額	△ 9,114,764	120,290,433	△ 129,405,197
2. 経 常 外 増 減 の 部			
(1) 経 常 外 収 益			
固 定 資 産 売 却 益	0	1,108,224,600	△ 1,108,224,600
固 定 資 産 受 贈 益	2,800,000	520,000	2,280,000
過 年 度 修 正 益	2,727,000	0	2,727,000
経 常 外 収 益 計	5,527,000	1,108,744,600	△ 1,103,217,600
(2) 経 常 外 費 用			
固 定 資 産 売 却 除 却 損	5,906,641	0	5,906,641
過 年 度 修 正 損	2,727,000	0	2,727,000
経 常 外 費 用 計	8,633,641	0	8,633,641
当 期 経 常 外 増 減 額	△ 3,106,641	1,108,744,600	△ 1,111,851,241
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 12,221,405	1,229,035,033	△ 1,241,256,438
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	3,646,612,606	2,417,577,573	1,229,035,033
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	3,634,391,201	3,646,612,606	△ 12,221,405
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	113,808,409	22,635,000	91,173,409
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	22,635,000	0	22,635,000
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	136,443,409	22,635,000	113,808,409
III 正 味 財 産 期 末 残 高	3,770,834,610	3,669,247,606	101,587,004

財 産 目 録

平成30年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金		運転資金として	2,806,836
	普通預金	みずほ銀行 新宿新都心支店 他	運転資金として	8,762,003
	郵便貯金	代々木郵便局振替口座	運転資金として	2,995,485
	未収金	本所税務署 他	消費税の還付金 他	159,780,334
	販売用書籍	「入札鑑定同然帳」他	出版書籍の在庫である。	16,307,553
	製品	島根県仁多郡奥出雲町	玉鋼の在庫である。	86,575,306
	原材料	島根県仁多郡奥出雲町 砂鉄、木炭	玉鋼の材料の在庫である。	1,966,485
	前払金	N T T 東日本 他	通話料金の前払い分 他	139,484
流 動 資 産 合 計				279,333,486
(固定資産) 基本財産	建物	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	1,017,391,770
	普通預金	三井住友信託銀行新宿支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用している。	266,784,198
	定期預金	三井住友信託銀行新宿支店 他		289,242,109
	刀剣及び小道具	日本刀 他	公益目的保有財産であり、協会の事業の用に供している不可欠特定財産である。	766,250,000
	基 本 財 産 合 計			

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
特定資産	退職給付引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	職員13名に対する退職金の支払いに備えた積立資産である。	15,339,886	
		定期預金みずほ銀行新宿新都心支店 他		40,792,070	
	減価償却引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	将来の固定資産への投資のための引当資産である。	12,989,532	
		定期預金三井住友信託銀行新宿支店		10,000,000	
	刀剣学奨学積立資産	国債		96,487,123	
		定期預金荘内銀行東京支店		4,863,763	
	全国大会積立資産	定期預金三井住友信託銀行新宿支店	平成30年11月開催全国大会費用の積立金である。	10,000,000	
	新刀剣博物館建設資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	刀剣博物館建設事業の寄付金である。	5,569,459	
郵便局振替口座 他		249,530			
特 定 資 産 合 計				196,291,363	
その他の固定資産	建物	島根県仁多郡奥出雲町	(供用財産) うち、公益目的保有財産99.4% うち、管理目的の財源として使用する財産0.6%	19,877,238	
	建物付属設備	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産94% うち、管理目的の財源として使用する財産6%	652,485,862	
	構築物	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	114,462,288	
	機械装置	島根県仁多郡奥出雲町 東京都墨田区横網1-12-9	公益目的保有財産である。	7,771,750 3,637,740	
	什器備品	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	70,351,778	
	その他固定資産	東京都墨田区横網1-12-9		3,952,126	
	土地	長野県上田市		300,000	
	保証金	(株)セコム	セキュリティシステム等の保証金として預けているものである。 公益目的保有財産である。	70,000	
	刀剣及び小道具	東京都墨田区横網1-12-9 日本刀 他		161,691,809	
	研修用教材	東京都墨田区横網1-12-9 刀剣及び小道具	公益目的保有財産である。	15,367,000	
	絵画	東京都墨田区横網1-12-9 日本画 他	公益目的保有財産である。	3,234,118	
	図書及び押型	東京都墨田区横網1-12-9 網屋押型 他	公益目的保有財産である。	8,960,000	
	そ の 他 固 定 資 産 合 計				1,062,161,709
	固 定 資 産 合 計				3,598,121,149
資 産 合 計				3,877,454,635	

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金		書籍等仕入代 他	4,822,212
	前受金	個人会員 他	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する会費 他	25,434,851
	預り金	職員 他	社会保険料 他	5,174,469
	賞与引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	8,807,883
流動負債合計				44,239,415
(固定負債)	退職給付引当金	職員	職員13名に対する退職金の支払いに備えたものである。	62,380,610
固定負債合計				62,380,610
負債合計				106,620,025
正味財産				3,770,834,610

監査報告書

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
会長 酒井 忠久 殿

平成30年5月24日

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
監事 小池 哲
公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
監事 田口 堯

公益財団法人日本美術刀剣保存協会における平成29年4月1日から平成30年3月31日までの監査の方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事会などの会議に出席し、理事及び担当者からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告等及び会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、計算書類(貸借対照表・正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について監査いたしました。

2. 監査意見

(1)事業報告等の監査結果

- 1)事業報告は、法令及び公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に従い、法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- 2)理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に違反する事実は認められません。

(2)計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を正確に示しているものと認めます。

以上